

さいたま市公民館運営審議会第6回会議 議事録

1 開催日時

令和5年1月24日（火） 午前10時00分から午前11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：9名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 加藤 美幸 副委員長
- ③ 石田 玲子 委員
- ④ 大塚 晶子 委員
- ⑤ 植杉 嘉明 委員
- ⑥ 加藤 恒 委員
- ⑦ 栗原 保 委員
- ⑧ 白石 徳一郎 委員
- ⑨ 丹 能成 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- | | | |
|-------|-----------|--------|
| ① 西区 | 指扇公民館長 | 内ヶ嶋 直哉 |
| ② 北区 | 大砂土公民館長 | 岩井 由起子 |
| ③ 大宮区 | 桜木公民館長 | 大嶋 真浪 |
| ④ 見沼区 | 大砂土東公民館長 | 青木 文彦 |
| ⑤ 中央区 | 鈴谷公民館長 | 井出 浩史 |
| ⑥ 桜区 | 田島公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑦ 浦和区 | 岸町公民館長 | 星野 務 |
| ⑧ 緑区 | 大古里公民館長補佐 | 春日 徹也 |
| ⑨ 岩槻区 | 岩槻本丸公民館長 | 遠藤 明彦 |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 館長 | 中村 幸司 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 主幹兼事業・企画係長 | 野口 みずほ |
| ④ 事業・企画係主査 | 曾根 啓佑 |
| ⑤ 事業・企画係主事 | 藤田 雄一郎 |
| ⑥ 事業・企画係社会教育指導員 | 松本 みはる |

4 欠席者名

〈委員：3名〉

- ① 小林 玲子 委員 ② 島田 正次 委員 ③ 寺田 道子 委員

5 議題等

- ・ 前回会議録について
- ・ 「デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進に向けた公民館事業のあり方について」に関するまとめ案について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第6回会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第6回会議名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第6回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第5回会議議事録
- (5) 公民館・図書館等社会教育施設のデジタル活用促進について
- (6) 生涯学習分科会について
- (7) デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について（まとめ案）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

冒頭、事務局より前回会議録について説明を行った。

- ・ 議題「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について（まとめ案）」について事務局より説明した。

石田委員	国の動向などの前置きは可能な限り短くしたほうがよい。
加藤（美）副委員長	答申の核が、4「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について」なのに、そこまでの説明が長すぎる。1「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に関する国の動向」や2「本市を取り巻く状況と公民館における取組等」は文章を短くし、詳細は資料等でまとめたほ

	<p>うがよい。2「本市を取り巻く状況と公民館における取組等」とあるが、(1)「本市を取り巻く状況」を「本市を取り巻く現状と課題」としたほうがよい。その後(2)「本市におけるDX推進にかかる取組」(3)「本市公民館におけるDX推進にかかる取組」と続いていくが、公民館運営審議会として公民館の事例等を先に紹介したい。3「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」となっているが、期待には私たち委員の期待を書くのか。だとすると、その後すぐに言い訳のような課題が出るのは望ましくない。この部分は2の「本市を取り巻く状況と公民館における取組等」(1)「本市を取り巻く現状と課題」とした部分であらかじめ言及したほうがよい。前段の説明をすっきりさせ、4「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に向けた公民館事業のあり方について」をまとめていくとよい。</p>
栗原委員	<p>公民館に求められるものとして魅力ある地域づくりや地域コミュニティの基盤があるのであれば、ここに市の取組を重ねたほうがよい。DX推進だけでなく、地域づくりの拠点としての役割を記載していったほうがよい。</p>
山中委員長	<p>2「本市を取り巻く状況と公民館における取組等」(3)「本市公民館におけるDX推進にかかる取組」の内容について、視野が狭いように感じる。もっと広く記載するために、公民館がこれまで頑張ってきたことの内容に触れるのはどうか。また、9・10期答申については、もっと強調して取り扱ってほしい。生涯学習分科会の議論の整理の中で、公民館の役割として4つの柱が示されているが、この中で社会的包摂の実現などについては、これまでの答申で示したものがあるので、デジタルについて抽出するというより、国の姿勢と市の取組との整合を図るとよいと思う。その中で、今まで頑張ってきたことの機能の強化として、デジタルを導入する書き方はどうか。1「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に関する国の動向」については、国の方針を羅列すると方向性がぶれてしまう。国の情報の受け取り方を考えたほうがよい。この答申では、メインを生涯学習分科会にして、その柱に今までの答申や取組を取り込むのがよいと思う。</p>
加藤(恒)委員	<p>現場の職員の後押しになるような答申になればよい。課題については現場からの要望を盛り込むようにして、事業への後押しとなる記載ができていくとよい。</p>
山中委員長	<p>おっしゃる通りである。また、副委員長の言う通り、「だれが寄せる期待なのか」を意識する必要がある。</p>
山中委員長	<p>3「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」(2)課題についてのところで、ソフト面の課題として挙がっている内容は本当に課題なのか。こうした内容は課題としてふさわしくないように感じる。この部分は、前段の期待や</p>

	<p>役割の記載に合わせて変わりうる内容となる。今回の記載については、職員がDXを推進する上での心理的なハードルや、事業数の増加に伴う負荷を想定したもの。課題の解決につなげていくためには、課題自体がしっかりしていないと議論がずれやすい。課題を挙げる際は現場の意向をしっかり反映する必要がある。</p>
石田委員	<p>課題として、市長部局や図書館との連携（講座等）の事例が少ないことを挙げてはどうか。</p>
加藤（美）副委員長	<p>3「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」となっているが、公民館の役割について触れられていない。9・10期の答申については2「本市を取り巻く状況と公民館における取組等」ではなくここで取り上げることにし、これまでの成果やwell-beingなどにも言及してはどうか。「DX推進への課題」という言葉自体が後ろ向きなので、「〇〇については頑張っているが、推進のためにはさらに△△が求められる」といった書きぶりがよい。</p>
栗原委員	<p>公民館は地域の拠点であるのは違いない。そのため多様な主体と連携、協働していく必要がある。さいたま市福祉部局において「さいたま市第3期保健福祉総合計画」の制定に向け進められている中で、社会福祉協議会を中心として各種施策に取り組んでいく内容が盛り込まれている。公民館でもこうした流れを踏まえ、DXを通じて地域と協働していくことが求められているのではないかと思う。</p>
山中委員長	<p>4「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について」について「求められるもの」の前文の内容によって変わってくると思う。</p>
加藤（美）副委員長	<p>解決策の後に記載されている内容について、連携・協働・デジタルデバインド対策は項目として欠かせないと思う。オンラインによる交流の取組も特出しできるといい。学校でも海外との交流に取り組んでいる事例等があると思うので、そうした内容を盛り込めるとよい。</p>
栗原委員	<p>小中学校だけでなく、高校でも情報の授業が必修となっている。また「総合的な探究な時間」もある。こうした学校教育の進む中で、公民館が中間に入りつつ、高校等ともつながっていくとよいのではないか。</p>
山中委員長	<p>4「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について」に記載のある「一歩進んだ事業」はどんなイメージか。</p>

事務局	既存のデジタル関係事業への+αや、デジタルではない事業にデジタルを取り入れたものを想定している。こうしたイメージは共通認識が重要なので、公民館長とも認識を共有できるとよい。
石田委員	スマホ講座は高齢者だけが対象のように感じる。また、高齢者や障害者が参加しやすい、という文言にも、若者などを対象とみていない印象を受ける。年代に関係なく、というような表現にしたほうがよい。また、「一歩進んだ」のイメージが不十分に感じるし、人材育成についても職員なのか市民なのかかわからない。
事務局	人材育成については、職員はもちろん、デジタル改革推進部が地域 ICT リーダーを養成するような地域人材の育成も視野に入れている。
加藤（恒）委員	以前の会議で、公民館長が「DX は目的でなく道具」と言っていたのが印象に残っている。「一歩進んだ事業」については、DX を推進していくとどんなことができるのかのビジョンを示せるといい。具体的な事業というより、未来を示すイメージではどうか。
山中委員長	未来のビジョンに何をどう入れ込むかについては、ワークショップでの議論も生かせる。
加藤（美）副委員長	事業の在り方について、公民館の役割である「集う」を意識して、バーチャルとリアルの融合を盛り込むとよい。デジタルデバイドについて、苦手意識のある方は「講座で学ぶ指導者から習う」といった形式自体が参加を妨げる障害となる。気軽に公民館を訪れた際に聞けるような「相談員の育成」「公民館の居場所化」が有効ではないか。

11 その他

次回（第7回）は、令和5年5月23日第4火曜日午前10時から、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールにて開催予定であることを確認した。

12 閉会